



特集 with コロナ

私たちの生活スタイルを変えた新型コロナウイルス感染症。中でも子どもたちは、大きな影響を受けました。普段通りの登校ができず、学校行事の中止や変更。そんな環境の中でも成長する子どもたち。今回は、コロナ禍で入学した町内中学校の生徒を代表して両校の生徒会役員の皆さんに話を聞きました。

生徒たちの声 コロナ禍の 学校生活の『今』まで VOICE

邑楽中学校編

Q 学校生活で大変さを
感じたところは？

阿部(半) 一年生の時の林間学校に行けなかったことや、マスク生活です。清一ソフトボール部の練習でマスクを着けたままだと息苦しいことや、マスク焼けです。
宮村 体操部の大会で大きな声を出すことが制限されていて、先輩の応援ができなかったことが心残りです。
小澤 剣道の試合をマスクとフェイスシールドの両方を着けて行ったことです。
阿部(百) 合唱コンクールの練習でマスクを着けたまま練習しましたが、本番ではマスクなしだったので、練習と本番のギャップがあったことです。
長谷川 学校の休校で勉強が進まなかったことや、コロナがどんなウイルスかもよく分かっていないなど、先の見えない不安があったことです。



▲林間学校の前まで楽しんだスキー教室 (邑楽中学校提供)

Q 大変だったとき、
どうやって前を向けた？

麥倉 一年生の時に林間学校が中止になり辛かったです。スキー教室に行けると分かったときに去年の分も楽しんで、一日少なくともなっていました。全力で楽しむことで辛かった思い出を乗り越えられました。
石井 バドミントンの大会で応援は声が出せない、試合に出ている選手へ精一杯拍手を送りました。また、試



▲邑楽中の生徒のメッセージを集めたモザイク

合に行く前に選手に「頑張って」と、試合から帰って来た選手に「お疲れ様」と声をかけていきました。
小澤 今まで当たり前前にできたことができなくなりました。それは、それからは、休日の学校以外の活動で、イベントなどは積極的に参加するようにしました。
阿部(百) 合唱コンクールの練習で、学校でできないことは家で練習で調整し、学校でも少ない時間ではありましたが、マスクを外しての練習時間があったので、その時間は集中して練習するようにしました。
長谷川 コロナへの不安は家族と協力しあって乗り越えました。外食ができなかったので毎日母が家族全員の食事を作ってくれたり、マスクが手に入りづらい時期は祖母が手作りのマスクを作ってくれたり、改めて家族のありがたさを実感しました。

生徒たちの声 想い描く 学校生活の『これから』 IN THE FUTURE

Q これからやってみたいことは？

阿部(半) マスクを外して友達と話したい。あと修学旅行は制限なしで行けたらうれしいです。
阿部(百) 合唱コンクールの練習で、学校でできないことは家で練習で調整し、学校でも少ない時間ではありましたが、マスクを外しての練習時間があったので、その時間は集中して練習するようにしました。
長谷川 コロナへの不安は家族と協力しあって乗り越えました。外食ができなかったので毎日母が家族全員の食事を作ってくれたり、マスクが手に入りづらい時期は祖母が手作りのマスクを作ってくれたり、改めて家族のありがたさを実感しました。

あったので、その時間は集中して練習するようにしました。
長谷川 コロナへの不安は家族と協力しあって乗り越えました。外食ができなかったので毎日母が家族全員の食事を作ってくれたり、マスクが手に入りづらい時期は祖母が手作りのマスクを作ってくれたり、改めて家族のありがたさを実感しました。
出してみたいです。
麥倉 野球の試合などでは、ベンチではマスクをして、それ以外は外してよいといった細かい決まりがあります。これからは、マスクを外したままでどこでも応援ができるようになったらいいと思います。
小澤 気兼ねなく、いろいろな人と関わっていききたい。マスクがあると表情が分かりづらいので、マスクを外して相手の表情を見ながら話しができたらいいですね。
秋野 制限があると全力で楽しめないから、制限がなくなったらマスクを外して野球の練習や試合を楽しみたいです。



▲日帰りだったけど、学びが多かった林間学校 (邑楽中学校提供)

清一林間学校には行くことができませんでしたが、日帰りになってしまったので、泊二日でもう一度行ってみたいのです。それか、全学年でドッジボール大会をやってみるのいいと思います。

阿部(百)ーバスケットボールの練習で苦しくなってきたからマスクを外すのではなく、最初からマスクを外して全力で練習がしてみたいです。

長谷川ー予餞会を動画配信ではなく、体育館で集まってやりたい。みんなが楽しく、お世話になった先輩たちに直接お礼が言いたいのです。

生徒たちの声

伝えたい GRATITUDE 先生たちへの感謝

Q 先生たちへ伝えたいことは？

清一外出が難しい状況の中でも林間学校に行くことができて、うれしかったです。また、日帰りになったことで、その分の代わりにドッジボール大会も開催してくれて本当に楽しかったです。

時田ー体育祭などの学校行事が中止になった時に代案行事を考えてくれて、一つ一つがとても楽しかったです。また、コロナ禍で私たちの気持ちが沈んだままにならないように、華やかな掲示物を教室に貼ることで、気持ちも授業の雰囲気もよくなりました。

石井ー一年生の時の体育祭の代案でクラス対抗体育祭ができたこともありがたかったですし、二年生では今までと同じような形式で、体育祭ができてうれしかったです。感染症対策を取りながら行うために、いろいろな方法を考えてくれた先生たちに感謝しています。

小澤ー先生たちが考えてくれた代案行事や、形式を変えて行われた学校行事ができたこととても感謝しています。また、町でも感染症対策を取りなが



▲声の出し方が難しかった合唱コンクール (邑楽中学校提供)

いろいろなイベントが行われていて、それに参加できたことがうれしかったです。

阿部(百)ー感染症対策を取りながら開催された合唱コンクールも、私たちのために工夫をしてくれてありがたかったです。

生徒たちの声

コロナ禍の VOICE 学校生活の『今』まで

邑楽南中学校編

Q 学校生活で大変さを 感じたところは？

森戸ーマスクを着用していると表情がわかりづらいため、コミュニケーションが取りづらかったことです。

櫻井ー行事やテニス部の活動ができなかったことです。

廣木ーマスクを着用したままの体育の授業です。

小室ーフェイスシールドを着用したまま会話をすると相手の話している声が聞こえづらく、聞き返すことがあって、会話がなかなか進まなかったことです。

新井ー肩を組むなどのスキンシップが取りづらかったことです。

原田ー一年生の時に三カ月近く体操部の活動ができなかったことです。

間下ー一生懸命バレーボール部の練習をしたのに大会がなくなってしまったことや、友達との距離が近いと先生に注意されたことです。

チーム「邑楽中」の気持ちで

コロナ禍でほとんどの学校行事ができなくなっていました。子どもたちはできることを地道に行っていました。行事が少しずつできるようになってからは、子どもたちの輝く姿が見られました。

三年生は先輩としての行動を取り、後輩を引っ張っていました。二年生と一年生もそれをしっかり見ていて、全学年で行事を成功させようとする意欲が見られました。これからも、一生懸命やったことに対して胸を張り、自分の考えが学校をより良くすると信じて、自らどんどん発言してほしいです。



邑楽中学校長 岡部 義彦さん



原田 律さん (2年) 三ツ村 大和さん (1年) 小室 菜生さん (2年) 櫻井 悠斗さん (2年) 廣木 玲さん (2年) 新井 友理さん (2年) 森戸 琉輝さん (2年) 間下 静蘭さん (2年)



▲みんなで前を向いて食べた学校給食(邑楽南中学校提供)

三ツ村―コロナになる前は給食をみんなで楽しく話しながら食べていたのに、今は黙食が続いていることです。

Q 大変だったとき、
どうやって前を向けた？

森戸―マスクで相手も表情がわかりづらいと思ったので、体全体を使って自分の気持ちを伝えるようにしました。
櫻井―一年生の時の体育祭が中止になって、代わりにクラス対抗の体育祭が開催されました。いろいろな行事が中止になっていたこともあったので、この行事を全力で取り組むことで辛かった思

い出を楽しみ思い出に換えました。
廣木―体育の授業でマスクを外すことに抵抗もあったので、本当に辛くなるまではマスクは外しませんでした。その代わりに、こまめに休憩を取るようしました。そうすることで、自分の体調管理がしっかりできるようになったと思います。

三ツ村―みんなと楽しく給食を食べることができないので、とにかく食べることに没頭しました。この黙食期間で舌が研ぎ澄まされた気がします。

小室―話しが聞き取りづらいのは相手も同じだと思って、今まで以上に相手の話をよく聞くように心掛けました。
新井―スキップが取れない代わりに、マスク越しでもわかるくらいの表情をたくさん出すようにしました。今までより表情筋が動くようになったと思います。

原田―部活が再開してから、感覚を戻すために徹底的に基礎練習をしました。また、久しぶりの練習で、ケガをする危険があったので、部員同士で補助をしながら練習を重ねました。その他にも、苦手なところは得意な人にアドバイスをもらいながら、克服をしていきました。

間下―いつまたバレーボールの試合ができなくなるか分からなかったので、

生徒たちの声 伝えたい GRATITUDE 先生たちへの感謝

Q 先生たちへ伝えたいことは？

森戸―体育の授業に遅れてしまった時がありました。コロナ前なら間違いなく怒られていた場面でしたが、私たちが我慢やストレスを抱えすぎないようにするための、気遣いを感じました。
廣木―例年より短くなり一泊二日にはなってしまうましたが、スキー教室に行くことができました。それは、先生たちが試行錯誤して私たちにどうにか学ぶ場を作ってくれたからだと思います。

三ツ村―林間学校も日帰りでしたが当時学んだことは、私たちにとても貴重な経験になりました。

小室―音楽の授業で、教科書にはない観賞の時間がありました。コロナの感染者数が増えているときだったので、飛沫などの感染リスクを軽減するためなのかなと思いました。私たちの健康を考えながら授業を行ってくれたことに感謝しています。

間下―那須ハイランドパークで職場体



▲那須ハイランドパークで行った職場体験(邑楽南中学校提供)

験ができたのは先生たちが、いろいろなところに掛け合ってくれたからです。例年はない職場体験や楽しい思い出を作ることができました。

一つ一つの試合に対する気持ちが変わりました。一球一球を丁寧に扱うプレーを心掛けながら戦うようになりま

生徒たちの声 想い描く IN THE FUTURE 学校生活の『これから』

Q これからやってみたいことは？

森戸―みんなと楽しく給食を食べたい。それから、マスクを外して友達と会話したい。マスクなしの友達の笑顔をもた見たいです。

櫻井―部活で思いっきり声を出してプレーしたい。応援も拍手だけではなく大声で応援したいです。

廣木―マスクを外して走りたい。体育館での体育のときもマスクなしで全力で楽しみたいです。

三ツ村―もちろん、みんなと楽しく給食を食べること。給食は黙食で楽しむこともできますが、話しながら食べた方がもっとおいしくなると思います。あと、大声を出したい。

小室―コロナ前の普通の日常生活を送りたい。普通の生活に幸せを感じると思います。

間下―ひいおばあちゃんに会いに行きたい。今はコロナ禍なので同じ町内に

した。また、友達との距離の問題は気を付けるようにしました。

住んでいてもなかなか会えていないので、いつでも会いに行きたいです。

新井―気兼ねなく友達と肩を組んだり、マスクを外して笑顔を見ながら会話したいです。

原田―体操部に入っていて大会では表情も加点されるので、マスクなしの生活になったら日常生活から、どんどん表情を出していきたいです。



いつでも自信を持って



邑楽南中学校長
松澤 修 さん

子 どもたちは行事などの中止はしかたがないと冷静に受け止めていられるように感じました。代案行事は制限されている中で、できることを精一杯工夫しながら取り組み、一つ一つの行事を楽しんでいました。また、当たり前のことが当たり前ではなく特別なことだったのだと気づいていき、心が豊かに成長していると思います。たくさんの方の困難を乗り越えてきた皆さん、この先どんなことがあってもプラスに持っていかけていきます。自分を大切にしてください。

「少年よ大志を抱け」

中 学校の学校生活は、運動、学業、信頼できる友達との絆を深めるなど、自己啓発に最も大事な時だと思っています。しかし、「コロナとの戦い」は、学校生活においても制限された日々を過ごすことなく、そんな状況をつくりだしました。特に三年生は、中学校へ入学してから卒業までの三年間、まさしくそうであったと思います。けれど、コロナ禍であっても、皆さんから聞こえてきた言葉は、たくましく、そして勇気づけられました。この経験を礎に、これからの学校生活はもちろん、巣立った後も困難なときは、この辛いときを乗り越えたということを思い起こし、創意工夫を重ね、大きく羽ばたいてください。皆さんの可能性は無限です。これからの生活を一日一日大切に、町のため、国のため、世界の恒久平和のため活躍を期待しています。



町長
金子 正一